

東愛知新聞

発行所:東愛知新聞社 〒441-8016 豊橋市新栄町字鳥瞰62 電話0532 (32) 3111
ホームページ:https://www.higashiaichi.co.jp

9月4日 木曜日

【先勝】



4910856510454 00109

心身回復へ母子の強い味方

豊橋のKMC 開院から1年で課題も

小石理事長に聞く④

豊橋市の医療法人「小石マタニティクリニック」による「産後ケア事業」の委託医療機関「KMC産後ケアセンター」が同市つつじが丘1にオープンして1年を迎えた。母子ともに健やかな生活を送れるようにと、産後の母親が抱える悩みやストレスを受け止め、心身ともに回復をサポートしている。小石麻子理事長にこの1年の実績や課題を聞いた。

【田中博子】

産後ケア事業（母子保子に対して心身のケアや健法17条の2）は、市町 育児のサポートなどを村が出産後1年以内の母し、産後も安心して子育て

てができる支援体制を確保する内容。2021年4月に施行された。センターは産後ケアに特化した県内初の施設として誕生し、東三河5市と静岡県湖西市、浜松市の産後ケア事業を受け入れている。産後1年までの母を対象としたショートステイ（8室）、デイケア（2室）があり、デイケアは第2子以降の、ショートステイは第1子の母の利用が多いという。

今年7月までの1年間で、延べ1800人を超す人が利用した。子育てについてのアドバイスを受けるほか、エステやアフターマタニティのエクササイズを受けたり、理学療法士の指導を受けたり、1階のカフェでケーキセットを楽しんだり、さまざまな方法でリラックス。託児もあり、赤ちゃんのきょうだいを一時預かってもらい、自由時間を作ることできる。チェックイン時とアウト時では母親の表情がまるで違うという。

妊産婦の合併症として最も多いのが「うつ病」といわれる。亡くなる理由の最も多いものの一つは「自死」という悲しい事実もあり、産後のメンタルヘルスケアの重要性が叫ばれている。センターでは、専門スタッフが母親の授乳時の悩みの解消や傾聴でのストレス緩和、赤ちゃんの健康管理についてアドバイスするほか、併設する「KMCウイメンズヘルスクリニック」との連携で身体の開



開設1年を迎えたKMC産後ケアセンター

「人が大切な事業」と小石理事長。母子のサポート、夜間のスタッフ配置や食事、環境など24時間体制できめ細やかにケアをするための人材育成にも力を入れている。育児に困っている人の中にも「産後ケア」について理解していない人も少なくない。「もともとは産婦人科の空きベッドでケアをしていたが、どうしても片手間になっ

うため、施設を立ち上げた。困っていることができた時のため、多くの人に知ってほしい」と呼び掛ける。

課題もある。妊産婦が豊橋市に里帰り出産している場合でも、現住所が対象地域外だと制度的に公費での利用ができない。「里帰り出産をしても実家の事情でサポートが得られない場合もある。自費で利用する人もおり、制度の今後の整備も望まれる」という。

デイや宿泊で気分爽快

豊橋のKMC 産後ケアセンター 長女とくつろぐ牧野さん

小石理事長に聞く①

つばいの年中児の長男も
いるため疲れもたまる。

この日は長男を託児し、飛鳥ちゃんとのんびりと時間を過ごした。「少しでも長男をみてもらえる」と全然違う。リラックスして帰れます」と話していた。

ご家族からの支援も困難だった時には、ぜひご利用ください。ネットでも解決しようと試みる人もいますが、悪いことばかり目に付くケースもある。気軽に専門家に相談を」と小石理事長は呼びかける。

毎月第2土曜に
「施設見学会」

センターでは毎月第2土曜の午後2時から、施設見学会を開く。妊娠中からの予約も可能。問い合わせは産後ケアセンター（0532・66・5143）へ。

【田中博子】

デイケアを利用する牧野さん

豊橋市の医療法人「小石マタニティクリニック」の「産後ケア事業」の委託医療機関「KMC産後ケアセンター」が同市つつじが丘1にオープンして1年。産後ケアに特化した県内初の施設として、日帰りや宿泊で産後の母親の心身のケアや安心して子育てできる体制づくりを支援している。

は部屋まで運ばれるが、2階ラウンジで他の母親と一緒に食することもできる。「同じ立場のお母さん同士が話をするので気分がすっきりしたり、利用後もお付き合いが続くケースもあります」と小石麻子理事長。



ベッドと鏡台が置かれた明るい室内には円座や授乳クッション、飲料水とポットが置かれ、シャワールームもある。食事